

☆被災地の歴史資料・文化財の保全、震災の経験の記録化と保存!!
★幅広いネットワークづくりを通じて、歴史・文化を復興に活かす!!
☆被災地から全国へ、歴史学と社会をめぐる普遍的な課題へ!!

史料ネット News Letter

第67号 2011年11月11日(金)

発行：歴史資料ネットワーク

特集 長野県下水内郡栄村での史料レスキュー活動



▲写真左から、古民家の屋根裏で救出する文化財を調査する、大破した土蔵から文化財を運び出す、文化財を保管庫に運搬する。



▲写真左から、崩れかけた土蔵から文化財を救出する、旧家の土蔵から救出した民具、古民家の屋根裏で救出した文化財を調査する。

CONTENTS

- 巻頭言 東日本大震災をどう受け止めるか ————— 松岡 弘之 (2)
- **特集** 長野県北部震災と文化財レスキュー活動 ————— 白水 智 (3)
- 2011 年度歴史資料ネットワーク総会の記録 ————— (6)
- 地域史卒論報告会の記録 ————— (7)
- 「卒論報告会」参加記 ————— 中岡 宏美 (7)
- 東日本大震災以降の史料ネット災害対応の記録 ————— (8)
- 大阪歴史学会大会で緊急報告 ————— (10)
- 被災歴史資料保全活動継続へ重ねて募金のお願い ————— (11)
- 2011 年東日本大震災被災史料活動支援募金ご協力の御礼 ————— (12)

東日本大震災をどう受け止めるか

松岡 弘之

遅くなりましたが、今年度初めてとなるニュースレターをお届けします。まず、東日本大震災に関して全国のみなさまから 700 万円を超える寄付を頂戴しましたこと、深くお礼申し上げます。みなさまからお預かりしたお志は、宮城・山形・福島・岩手・茨城・新潟、そして長野県栄村での史料レスキュー活動にお役立ていただいております。本号に掲載した白水さんはその栄村で懸命に活動しておられます。現地からの報告をぜひご覧ください。

一方、9 月には台風 12・15 号が相次いで上陸し、特に台風 12 号による死者・行方不明者は和歌山県・奈良県を中心に 94 名にのぼり、土砂崩壊の規模は戦後最悪ともいわれています。兵庫県内でも 1 名の方が亡くなられ、2 棟が全壊、床上浸水は 1364 棟にもおよびました（総務省消防庁 11 月 2 日発表）。被害に遭われたみなさまに心よりお見舞い申し上げます。史料ネットでも事務局を緊急体制に移行し、各地の被害状況の把握につとめつつ、ご相談を承っておりますが、和歌山県では関係者のご尽力で「歴史資料保全ネット・わかやま」が組織されることとなり、活動を開始しています。今後の充実が期待されます。

新運営委員がこの欄を担当するのが慣例とのことで、いささかの初心を書き留めておきます。私自身は日本近代史を勉強しながら、大阪で自治体史編纂に携わってききましたので、史料ネットの献身的な活動ぶりはかねがね頭が下がる思いで拝見してきました。そんななか会も後援した「歴史資料の保全—水害被災地からの提言—」が大阪歴史博物館で開催されました。企画には大阪での連携を探るという狙いも込められていたかと思うのですが、私自身も水損史料応急対応に関するワークショップに参加し、佐用町や今般再び豪雨に見舞われてしまった奄美市のみなさまのお話をうかがうなかで、改めて活動の意義と必要性を痛感したのでした。東日本大震災が発生する 4 日前のことです。委員の末席に列なり実際の災害に接すると、心はやはり大きく乱れますが、10 月下旬にお手伝いにかがった仙台のみなさんからは口々に「大阪は大丈夫ですか？」とご心配いただいてしまいました。喧しい行財政改革の弊害は身近でも顕著に現れていますし、そうでなくとも長く家や地域で伝えられてきた資料が、災害時に限らず、危機に瀕している状況を目の当たりにしてきたつもりです。繰り返しいわれてきたことではありますが、そうしたなかで過去と現在と未来をどう切り結び地域のみなさんと共有していくか、災害に備えた足下の活動をどう展開するか、住民として、史料ネットとして、また職場としても、みなさまに教えていただきながら、愚直に取り組んでいくことが私の課題です。

来月は師走。ほどなく寒さが厳しくなることでしょう。それぞれの地域が大きな課題を抱えており、その展望を切り開くための息の長い営みが求められています。みなさまの一段のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

(まつおか・ひろゆき／歴史資料ネットワーク運営委員)

長野県北部震災と文化財レスキュー活動

白水 智

長野県北部震災を知っていますか

長野県北部で今年3月12日に大震災が発生したことを知っている方は、どの程度おられるだろうか。その前日に発生した東日本大震災があまりに巨大で、その後福島第一原発の重大事故にもつながったため、日本の報道はそれ一色になってしまったが、実は震度6強を記録する隠れた大震災が長野県も襲っていたのである。被害は県北部の栄村に集中し、被災した集落では甚大な被害が出て、現在もまだ復旧・復興の途上にある。



▲全壊した公民館

筆者は、11年前からこの栄村において史料調査を行ってきた縁で、4月以降、文化財の保全活動に携わっている。これまで被災地でのレスキュー活動の経験はなかったが、とりあえずゴールデンウィークに当地に出向き、以前に調査したことがあり今回の地震で大破した旧家H家の土蔵の片付けと4軒の個人宅での史料調査などを行った。

現地から戻って間もない頃、たまたま歴史資料ネットワーク(史料ネット)に所属する知人から栄村の状況について問い合わせをいただいた。行ってきたばかりの現地の状況と活動の状況を伝えたところ、早速隣県である新潟県の新潟歴史資料救済ネットワーク(新潟資料ネット)を紹介され、また活動資金の支援をお申し出いただいた。そこでその受け取り口座を開くことになり、「地域史料保全有志の会」(有志の会)の名称で口座を開設するとともに、以後この団体名でレスキュー活動を展開することになったのである。そしてこの後、現在までに9回の保全活動を行ってきた。活動の展開と共に、多方面から多くの方々にご参加いただくようになり、活動内容も次第に変化しつつある。

豪雪地ゆえの問題

栄村は全国有数の豪雪地域で、毎年冬には3メートル余りの雪が積もる。中心部の森宮野原駅前には、1945年(昭和20年)に記録した7メートル85センチという積雪記録の標柱が立っているほどである。この雪が文化財保全活動にも大きな影響を与えている。

村では、罹災証明の発行を経て、6月以降被災建物の取り壊しが次々と進んでいる。当地では、全壊ならずとも傷んだ建物は豪雪を乗り越えられない可能性がある。しかも多額の経費のかかる解体を9月末までに申し込めば公費でやってくれるというので、役場には古民家や土蔵などの解体申し込みが多数寄せられている。しかし、まさにそういう建物にこそ文化財は残されてきている。民家の屋根裏や仏壇・神棚には多くの民具が残されており、また土蔵内にも木箱に収められた見事な膳碗の揃いがそのまま残っている。



▲大破した土蔵での救出作業

たり、筆筒や文書箱には古文書が整理されて入っていることもある。それが今は使うことがない、崩し字で書かれた紙くずは読めないし要らないという理由で、次々に廃棄されていく。解体を急かすような村の施策によって、これらが急速に消滅の危機に瀕しているのである(公費での解体は来年も可能という報道もある。「無償での家屋解体は来年も継続へ」栄村復興への歩みブログ 2011.09.26 記事, <http://sakaemura-net.jugem.jp>)。これは私達レスキューに携わる者からすれば時間との戦いを意味する。本格的に雪の降り始める12月までに、文化財がある可能性のある家はすべて回っておかなくてはならない。



「民具大移動」から古文書の移動へ



▲民具大移動の一齣

初回の活動は、長く調査を共にしてきた歴史学関係の仲間で行ったが、6月以降は各地の博物館や史料ネットなどからの参加者が集い、いよいよ本格的な活動ができるようになった。特に民具専門家である神奈川大学の石野律子氏の加入は大きな意味をもっていた。というのも、レスキュー先で見出される文化財の大半が民具だからである。文献史学を研究してきた筆者たちのグループだけでは全く扱えなかったものが、6月以降は保全の対象となった。

一方、民具救出の増加は、たちまち保管場所の問題を引き起こした。紆余曲折の末、教育委員会に手配していただいた村内の旧分校跡の校舎を文化財保管庫として使用することになった。ただ、ここは食品会社が最近まで工場として利用していたため床はコンクリートが打設されており、湿気を呼びやすく、水道も電気も来ていなかった。

しかし村内の個人宅から緊急に運び出した民具や古文書は、応急に知り合いの個人宅のガレージなどに置かせてもらっており、初回に片付けを行った土蔵内の民具も含め、いずれ保管庫に移動させる必要があった。その量は4トントラックで3台分にも上ろうという数量であった。8月初旬、「民具大移動」と名付け、これら文化財を多数の人手で一気に運ぶことになった。こうして2日間で延べ100人もの方々にお手伝いいただき、炎暑の中、相当量の民具や古文書の詰まった箆笥などを保管庫に運んだ。なおこの際には、人員・資材・監理など多くの面で新潟資料ネットの全面的な支援をいただいた。

しかしすぐ次の課題となったのは、運び込まれた文化財のうち古文書等の文献史料を移動させる仕事であった。前述のように、保管庫は湿度が高く、古文書保存には不適な環境である。幸い隣の飯山市教育委員会が文化財専用収蔵庫の貸与を申し出てくれていたため、民具大移動から遠くない機会に文献史料のみはそちらに移動させる計画となっていた。こうして8月下旬、民具の中から文献史料を抽出する作業を行い、それらを丸2日かけて飯山市へ運んだ。古文書のうち大多数は、初回活動時に整理したH家土蔵に残されていたものである。同家には襖や屏風の下張文書などを含めれば2万点を超える古文書があると思われるが、これは栄村にとっては最大級の史料群であり、村の歴史を解き明かす大切な手がかりとなるものである。しかもその大半は未整理で、未だ内容はわかっていない。今後、この古文書の整理も重要な仕事になってくることは間違いない。



「栄村方式」の民具整理へ

民具レスキューを担った石野氏は、民具が収集だけされて放置され、そのまま粗大ゴミのように扱われている全国各地の実情を憂え、つねづねその整理と活用の必要性を説いている。栄村にもここ30～40年に亘って集められてきた民具が保管庫の2階に乱雑に放置されていた。石野氏の呼びかけに応じて、それらの民具と一連のレスキューで運び込んだ民具とを、地元住民や村外の興味をもつ有志の方々と共にワークショップのような形で整理し、今後教育や生活の現場で再び活かしていく方式を今、「有志の会」で始めている。初回となった9月の活動には30名以上の方が集まり、関心の高さをうかがわせた。今後民具の整理も長期に亘って続くが、最終的にどのような形で活かしていくかに関するアイデアも出始めている。

11月現在も村内は建物の解体ラッシュで、個人宅からのレスキュー作業は続いている。今後は文化財の救出と共に整理にも本腰を入れていかなくてはならない。なお、「有志の会」の中心メンバーは毎月首都圏から長野県北部の現地まで通って作業を続けているが、基本的には旅費も個人負担に頼っており、長期にわたる活動には限界もある。少しでも活動のご支援を皆さまにお願いしたいと考えています。

(しろうず・さとし／地域史料保全有志の会)

寄付金を募集しています!!!

振込先：津久井郡農協相模湖支所

口座番号：0010661

加入者名：地域史料保全有志の会 代表 白水智

2011 年度歴史資料ネットワーク

総会の記録

歴史資料ネットワークの 2011 年度総会が、2011 年 6 月 12 日（日）に西宮市大学交流センターにおいて開催された。松下正和副代表による開会の辞の後、議長として三村昌司氏、書記として吉原大志がそれぞれ選出された。引き続き、議長より個人会員が 162 名、出席者数が 13 名、議決権行使者数が 13 名、委任状提出者数が 55 名であることが報告された。



その後、議案の審議に入った。川内淳史事務局長より、第 1 号議案・2010 年度活動報告として、（1）2004 年台風 23 号に伴う文書整理と受入（田尻家文書の整理・調査作業の進捗状況）、（2）市民や自治体との連携を重視した地域史研究や地域遺産保存・活用の取り組み（公開シンポジウムや兵庫津歴史講演会、2009 年台風 9 号で被災した史料の返却および現地説明会、「シンポジウム地域資料の保存と活用を考える」実行委員会への参加、地域史卒論報告会など）、（3）震災記録保存と文化財防災（各地で開催された水損史料修復ワークショップや、大学コンソーシアムひょうご神戸への協力、阪神・淡路大震災に関する震災記録保存など）、（4）災害対策（2010 年 10 月の奄美豪雨水害および、2011 年 3 月の東日本大震災に対する災害対応）、（5）組織と運営（運営委員・事務局員などの組織や、ブログなどによる情報発信の現状、会員数の推移、史料ネット活動の紹介やカンパ呼びかけにおける各学会の協力など）、（6）出版および論文などの掲載、の 6 項目が提示された。

次いで、人見佐知子事務局員より、第 2 号議案・2010 年度決算報告が行われた。これをうけ、船勢肇会計監査委員より第 3 号議案・2010 年度監査報告がなされた。

この後、川内淳史事務局長より第 4 号議案・2011 年度活動方針案、人見佐知子事務局員より第 5 号議案・2011 年度予算案が提示された。活動方針については、東日本大震災への対応を今年度の中核的課題とし、現地での史料保全活動に対する長期的な支援体制の構築や、震災資料の収集・保存に関して国や各自治体、および関係機関に積極的な提言を続けることが提示された。また 2004 年台風 23 号・2009 年台風 9 号で被災した史料の整理・返却など、前年度の活動方針も継続する必要が確認された。予算案については、計上項目に関する説明がなされた。その内容は、東日本大震災への対応が継続中のため、市民講座企画費・水損史料修復ワークショップ経費・史料整理作業費を縮小し、web ページ更新のための経費を計上したことである。

最後に、第 6 号議案・2011 年度運営委員と会計監査委員の選出が行われ、奥村弘代表による閉会の辞をもって、総会は終了した。

※総会の決議録は、個人会員および学会会員の方には、別刷りにて同封していますので、ご参照ください。

（文責：吉原大志／歴史資料ネットワーク事務局員）

地域史卒論報告会の記録

歴史資料ネットワークと神戸史学会が2006年より毎年開催している「地域史卒論報告会」も、はや6回目を迎えました。

卒業論文の多くは、学会や地域に向けて発表できないままになってしまうのが現状です。この卒論報告会を設けることで、大学で歴史学を学んだ学生さんたちが、卒業後も歴史と社会に対する関心を持ち続けていただき、また大学での地域史研究や歴史資料保全の取り組みの成果を、市民のみなさんと共有することで、歴史資料保全への理解の裾野を広げたいと考えています。

今年の卒論報告会は、3月11日発生の東北地方太平洋沖地震直後ということもあり、大規模災害時における歴史学の役割についても考えさせられる会となりました。お三方の水準の高い報告に会場からもたくさんの質問がありました。

最後になりましたが、報告者皆さんにお礼申し上げますとともに、今後とものご活躍をお祈りしております。

なお、中岡宏美さんから感想文をお寄せいただきました。当日の要領は下記をご覧ください。

■日時：3月13日（日） 午後1時30分～午後4時30分

■場所：西宮市大学交流センター会議室

■主催：歴史資料ネットワーク、神戸史学会

■報告：

伊藤沙紀さん（神戸大学）

「中世後期尼崎地域における住人組織の展開—長洲「番頭中」から「尼崎惣中へ—」

中岡宏美さん（神戸大学）

「兵庫津直轄支配をめぐる大坂町奉行所の畿内・近国支配の展開」

中西佑未さん（大阪市立大学）

「1930年代における軍事援護事業と地域社会—阪神工業地帯の一工業村を素材に—」

（文：歴史資料ネットワーク）

「卒論報告会」参加記

中岡 宏美

今回、私は地域史卒論報告会に報告者の一人として参加させていただきました。卒論報告会が行われたのは卒論を書き終えてから約2ヵ月後のことでしたが、卒論提出後しばらくの間は報告会に向けて準備をしようと思っても、なかなか自分の書いた卒論と向き合うことが出来ませんでした。提出を終えホッとしていたというのもありましたが、読み返す

と不十分な部分ばかりが目につき、読むのが嫌になる、という感じでありました。しかし、せっかく報告の機会をいただいたのだからと思い、徐々に卒論と向き合い始めました。

卒論を書き上げるまでを振り返ると、最も苦労したのは史料の少なさでした。過去に関係しそうな史料があったことは確認出来るのですが、多くが戦災などの事情によってすでに消失してしまっているようでした。そのような状況でしたので史料を集めることにはとても苦労しました。それだけに一つひとつの史料を大切に、史料の翻刻データをアウトプットした紙がボロボロになるまで、何度も繰り返し読み返した思い出があります。

そうしたなかで書き上げた卒論について、卒論報告会の場で報告させていただくこととなりました。これまで大学では、授業や研究会で何度も卒論報告をおこなって来ました。しかし、卒論報告会では私の報告を初めて聞かれる方がほとんどなので、これまで当たり前のように使ってきた基本的な語句などについても、自分でしっかりと理解出来ているだろうかとか確かめながら、レジュメを作成していきました。そのことで自身の卒論の内容への理解をさらに深めることが出来たように思います。そして報告会の中では、これまでの大学での報告とはまた違った角度からの厳しい指摘や助言をいただき、不十分な点を改めて実感することが出来ました。こうして、改めて自分の卒論を見つめ直し、またさらに必要なことを知る機会を得ることが出来て良かったと思います。ありがとうございました。

現在、私は市役所職員として働いています。仕事内容は多岐に渡るため、必ずしも専攻を直接活かすことが出来るというわけではありませんが、どのような仕事に従事するにしても、日本史学の専攻を通して得たこと、学んだことを活かしていくことが出来ればと思っています。

(2011年4月記)

(なかおか・ひろみ／歴史資料ネットワーク運営委員)

東日本大震災以降の史料ネット災害対応の記録

- 3月11日 東北地方太平洋沖地震 (M9.0、東日本大震災) 発生 / 三陸海岸を中心に津波で大被害
- 3月12日 長野県北部震災発生
- 3月13日 緊急運営委員会開催、翌日からの緊急事務局体制および当面の方針を確認
- 3月14日 緊急事務局体制へ移行 (～6/30)
- 3月16日 ブログに支援募金呼びかけ文を掲載、支援募金受付開始
- 3月17日 「東北地方太平洋沖地震被災地域の皆さまへ 歴史資料保全についてのお願い」をブログ掲載、資料保全の呼びかけ
- 3月21日 渡辺悦子氏により、英語版ブログ「rekishisiryonet」設置
- 3月25日 ブログに「おうちの思い出・まちの記憶を残すために」掲載、写真の取り扱いについて
- 4月9日 奥村代表以下3名「拡大四者協」に参加
- 4月10日 史料ネット3名および千葉歴史学会・房総史料調査会有志により、千葉県旭市・九十九里沿岸津波被災地域の調査
- 4月13日 吉川運営委員を宮城資料ネット事務局へ派遣 (～4/16)
- 4月15日 奥村代表以下2名、第1回被災文化財等救援委員会に出席
- 4月22日 内閣府大臣官房公文書管理課、国立公文書館宛に「東北地方太平洋沖地震 (東日本大震災) に関する記録資料の収集・保存に対する要望書」提出
- 4月23日 日本史研究会4月例会で、吉川運営委員が被災地 (宮城) 状況レポート

- 考古学研究会緊急フォーラムに吉原事務局員を派遣、保全活動についてポスター報告
- 4月25日 宮城県農業高校水損資料レスキュー実施（山形ネット・宮城資料ネットと共同）
- 4月26日 東北芸工大で宮城県農業高校レスキュー史料のクリーニング・保全処置（東北芸工大・山形ネットと共同）
- 4月28日 川内事務局長、兵庫県博にて SaveMLAK 岡本代表と会合
- 5月9日 松下副代表以下2名東北芸工大を訪問、被災資料移送作業を手伝う
- 5月10日 岩手県陸前高田市被災資料レスキュー実施（東北芸工大、山形ネットと共同）、レスキュー資料は東北芸工大へ移送
- 5月15日 文化財レスキュー事業による石巻文化センターレスキューに、吉川運営委員を派遣
- 5月16日 奥村代表ら3名、内閣府大臣官房公文書管理課、国立公文書館を訪問。震災記録の保全について意見交換
- 奥村代表ら4名、ふくしま史料ネット事務局（福島大学）を訪問
- 5月17日 奥村代表ら4名、宮城資料ネット事務局（東北大学）、せんだいメディアテークを訪問
- 5月20日 日本美術史学会全国大会（@同志社大学京田辺キャンパス）で、活動記録ブース設置（全史料協・SaveMLAK と合同、～5/22）
- 5月22日 歴史学研究会大会「緊急集会」をコーディネート
- 5月25日 陸前高田市立博物館所蔵資料レスキュー（山形ネットと合同）
- 5月29日 宮城県農業高校水損資料レスキュー実施（山形ネット・宮城資料ネットと共同）（～30日）
- 6月12日 2011年度総会シンポジウム「東日本大震災 関西で何ができるのか？」
- 6月18日 東アジア近代史学会大会で、奥村代表が講演
栄村地域史料保全有志の会による第2回保全活動に板垣・吉原が参加（～19日）
- 6月25日 日歴協・学術会議シンポに奥村代表ら3名出席
- 6月26日 大阪歴史学会大会緊急集会
- 6月28日 宮城ネット事務局ボランティアに松下が参加（～30日）
- 6月30日 本日付で緊急事務局体制を解除
- 7月2日 茨城史料ネット準備会に奥村代表ら、首都圏形成史研究会ほか川内事務局長らを派遣
- 7月4日 CEADACH 拡大連絡会で、河野運営委員が活動報告
- 7月5日 文化庁レスキュー事業、石巻文化センター資料クリーニング@向田文化財収蔵室に添田・澤井が参加（～6日）
- 7月9日 奈良歴史研究会総会で、吉川運営委員が「歴史資料の救出・保全活動から見た現地の被害と復興」報告
- 7月13日 松下が東北芸工大へ資料に付着した泥の成分調査を依頼
- 7月14日 宮城ネット涌谷町での保全活動に松下が参加
- 7月15日 宮城ネット事務局ボランティアに松下が参加
- 7月16日 2011年度神戸大学史学研究会大会で、川内事務局長・澤井運営委員が報告
- 7月20日 宮城ネット事務局ボランティアに松下が参加（～23日）



▲県立宮城農業高校の被災資料とボランティア＝2011年5月29日、添田仁撮影



▲泥にまみれた被災資料を洗う＝2011年7月5日、添田仁撮影

- 7月26日 宮城ネット事務局ボランティアに添田・松下が参加（～29日）
- 8月12日 災害時古文書レスキュー懇談会「東北の史料救出ネットの活動と和歌山の現状」、「歴史資料ネットワークによる東日本大震災対応について」、於和歌山大学生涯学習センター（奥村・松下）
- 8月22日 宮城ネット事務局ボランティアに河野・中岡・松下が参加（～23日）
- 9月1日 茨城ネット、北茨城市平潟での保全活動に藤田が参加
- 9月2日 近畿地方で台風12号による被害**
- 9月15日 茨城ネット、北茨城市平潟での保全活動に澤井・吉原が参加（～17日）
- 9月22日 「歴史資料保全ネットわかやま」設立に関する打ち合わせに奥村・板垣が参加
- 10月2日 和歌山ネット、和歌山県日高川町の視察に板垣・吉原が参加
- 10月7日 奄美豪雨被災地訪問（松下・中岡）（～8日）
- 10月8日 日本史研究会大会で「東日本大震災に関わる昼休み集会―大震災と地域資料―」開催
- 10月25日 宮城ネット事務局ボランティアに添田・澤井・松岡・吉川が参加（～28日）
- 10月25日 和歌山大学に台風12号水損史料見学と処置（板垣・松下）

大阪歴史学会大会で緊急報告

「今何が起きているのか・今何ができるのか―東日本大震災と歴史学―」開催



▲ 被災地・各地ネット・被災史料をめぐる状況と課題を報告する奥村代表

地・各地ネット・被災史料をめぐる状況と課題について報告し、最後に大阪歴史学会企画委員長岸本直文氏の結語をもって緊急報告は締めくくられた。



▲ 被災状況・保全活動の写真パネル展示のようす

6月26日（日）、神戸大学で開催された大阪歴史学会大会の昼休みに緊急報告「今何が起きているのか・今何ができるのか―東日本大震災と歴史学―」が開催された。

本報告は、東日本大震災発生から約3ヶ月を経た被災地及び被災史料保全活動の現状を、関西の歴史学関係者に広く情報提供し、共有するために大阪歴史学会が企画したものである。大阪歴史学会からの依頼を受けた史料ネット代表奥村弘氏、同運営委員吉川圭太氏が、歴史学関係者の東日本大震災への対応及び被災



▲ スライドで現地報告をする吉川委員

緊急報告は20分と時間が短かったにもかかわらず、およそ100名程度の参加者が見られた。東日本大震災における被災史料保全活動への関心が、関西においても高いことを窺い知ることが出来た。また、被災状況・保全活動の写真パネルを書籍販売スペースの一角に終日設置した。奥村・吉川両氏の報告と合わせて、6月時点での被災地・各地ネット・被災史料をめぐる状況と課題が参加者の間で共有されたものと思われる。

（文責：澤井廣次）

被災歴史資料保全活動継続へ重ねて募金のお願い

2011 年 10 月 28 日
歴史資料ネットワーク
(略称：史料ネット)

3 月 11 日に発生した東日本大震災で被災した歴史資料の保全活動に、多くのご支援をいただき、心よりお礼を申し上げます。

寄せられた支援募金は 7 月 25 日現在、総額 7,334,571 円で、うち 4,750,000 円を各地のネットワーク組織に送金しています。その内訳は、宮城歴史資料保全ネットワークへ 1,750,000 円、ふくしま歴史資料保存ネットワークへ 900,000 円、山形文化遺産防災ネットワークへ 700,000 円、茨城文化財・歴史資料救済・保全ネットワークへ 500,000 円、新潟歴史資料救済ネットワークへ 200,000 円、長野県栄村地域史料保全有志の会へ 700,000 円です。この資金によって、すでにネットワーク組織のあった宮城県や福島県では保全活動を早期に行うことが可能となり、茨城県や長野県栄村では新たな史料保全組織が立ち上がり、多くの被災史料を保全することができました。厚くお礼申し上げます。

また歴史資料ネットワークも被災地に赴き、これまでの経験を活かし保全活動の現地支援に取り組んでまいりました。岩手県では陸前高田市立博物館所蔵資料を山形ネットなどと共同で保全し、宮城県では宮城県農業高校所蔵資料の保全や、宮城ネットの事務局支援を行ってきました。また、山形ネットが続ける被災資料のクリーニング作業、長野県栄村で地域史料保全有志の会が行う保全活動にも協力してきました。

しかし被災した歴史資料は膨大な量にのぼり、その所在も広範囲にわたります。家屋・蔵の解体が急ピッチに進み、歴史資料の廃棄・散逸が懸念されます。またこれまでに緊急保全した史料の仮整理や簡易な修復も必要で、被災地支援は新たな段階に入り、さらに継続的な保全活動を続けていくことが必要だと考えています。

しかし現在、皆様からいただいた支援募金も底をつきつつあります。また台風 12 号によって和歌山・奈良・三重の各県で甚大な被害が生じました。このたびの震災のみならず、今回の水害に対しても、史料ネットがこれまで蓄積した経験を活かして保全活動を進める必要があります。

今後各地の史料ネットへの支援と、被災地外で行われる仮整理等のための支援を強化していくため、さらなる御支援をいただけないかと思います。

つきましては、皆様には被災した地域の歴史資料の救出・保全活動の第 2 段階への御支援への募金を重ねてお願い申し上げます。

被災歴史資料保全活動支援募金（郵便振替）

口座番号：00930-1-53945

加入者名：歴史資料ネットワーク

2011 年東日本大震災被災史料救出活動支援募金ご協力の御礼

支援者一覧（敬称略・順不同・5月1日～10月31日現在）

三村昌司、今村隆文、江本義文、辰巳和弘教授退任記念パーティー一同、秀村選三、小林成子、山本英二、大野薫、高松雅文、松井洋子、治田京子、岡田克博、小山喜代子、磯崎茂佳、尾下成俊、神戸深江生活文化史料館、柏田紘一、豊田元彦、吉田豊、豊見山和行、大阪市立大学文学部中世史ゼミ、小野征一、堀口詩織、鈴木拓也、井上智博、榎英一、堤啓次郎、清家章、田坂泰之、池亨、日暮義晃、須磨千穎、高江洲昌哉、大場利康、梅村佳代、窪田涼子、秋宗康子、柴田桃代、高田健一、西方久司、辻岡健志、谷谷佳代子、内田九州男、小山伸夫、東欧史研究会、川上真理、吉間仁子、土屋寿美恵、熊谷公男、藤澤良浩、清水雅代、戸崎曾太郎、宮崎県教育庁文化財課（谷口武範他10名）、浅利文子、玉井哲雄、川下倫央、中川博勝、大岡聡、山本希一、木村直也、加藤宏文、田中裕介、中尾浩康、羽田真也、大分県立先哲史料館、大原さとみ、武内雅人、榎村寛之、宮崎県総合博物館、久留島典子、久留島浩、幡鎌一弘、綿貫友子、山田邦明、小野一之、馬場義弘、三浦秀夫、中野聡、宮原一郎、大手前大学史学研究所（檀本・小林・魚津）、安藤久子、網島謙、大阪歴史学会、岡美江、柴田真一、石川照子、大門正克、若月剛史、高野宏康、松本通孝、藤原立子、官田光史、横山鈴子、松浦義則、前川佳代、吉田政博、佐伯真一、今井典子、樺井義孝、中野文彦、福田千鶴、人見和幸、河島真、土浪博、川西廣光、白井清万、山口啓二、山本秀夫、別府信吾、佐藤博信、高田幸男、石黒ひさ子、山本太郎、南智、室田卓雄、星野尚史、奥村芳子、牧野圭吾、柴田博子、福島雅蔵、武内禎治、太田幸男、後藤治子、佐竹朋子、高木浩朗、菊池一隆、首藤ゆきえ、黒川真一郎、中村順昭、尾島治、胡光、横山伊徳・百合子、長沼宗昭、井上敬夫、在間宣久、朝尾直弘、山本潤、尾立和則、榎原雅治、阿部恒久、筒井裕美子、中村哲、小川良太、芸備地方史研究会、行廣理矢子、井内誠司、保坂智、大石雅章、安東靖雄、小川幸司、森真理子、吉田晶、池田富、河野裕康、志賀節子、光田剛、毛塚万里、泉谷陽子、奥平野古文書勉強会、歴史学研究会、渡部桂子、小島徹、島田克彦、田中ひとみ、山中永之佑、高橋慎一郎、木村宏一郎、渡辺恒一、環白穂、池田邦一、平野歴史クラブ、福岡猛志、菅良樹、福井金弘、横地徹、和田順子、筑紫敏夫、榎村文彦、下野克己、浜口誠至、狩野久、田中文英、菅池由美子、渡辺金作、西村汎子、中小路純、奥山脩二、藤沢市文書館、宮地正人、吉原大志、国学院大学史学会、鈴江英一、田名真之、岡山大学日本史研究室、松田栄子、今井清一、樽野美千代、筒井弥生、田中裕介、茨城史料ネット、樋口映美、木村宏一郎、水野安紘、河西秀哉、ヨシダヨウイチ、今正秀、山中浩之、中野佳和、小野奈緒子、吉田勉、幡鎌一弘、森村幸子、長山雅一、屋鋪俊介、貴田潔、藤隆宏、青森県環境生活部県民生活文化課県史編纂グループ、前田かをり、石川晶子、小松貴宏、花尾和也、福島一恵、竹中康彦、白谷朋世、史学会、関本直子、黒川和政、中村塑、伊藤文、深井雅海、榊良

※岩田書院・岩田博様の「歴史系の専門書の出版社としては、現地での史料保全に役立ててほしい」とのご厚意により、2011年中の岩田書院の学会・研究会での売上金の1割を、被災史料保全への支援金としてご寄付いただいております。

※大阪歴史学会大会（6月26日、於神戸大学）および日本史研究会大会（10月8日～9日、於京都女子大学）にてカンパへご協力をいただきました。カンパしていただいた方々、ありがとうございました。

史料ネット NEWS LETTER No.67 2011年11月11日発行

編集・発行 歴史資料ネットワーク

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1 神戸大学文学部内 史料ネット

TEL&FAX:078-803-5565（開室時間 平日の午後1時～5時）

e-mail:s-net@lit.kobe-u.ac.jp

被災史料救出活動のようす・詳細は日々ブログに更新しています。

http://blogs.yahoo.co.jp/siryo_net